

JAふくしま未来「持続可能な農業の実現と地域共生社会に向けた取り組み」

■令和4年度～令和5年度上期■

JAふくしま未来 第3期みらいろプラン(中期経営計画書 (令和4～6年度)メインスローガン

ど真ん中に“食と農”、次代につなぐ地域づくり ～不断の自己改革へさらなる挑戦～



公式HP



Youtube

動画続々配信中!



みらいろ

JA管内で生産されている 果実: 桃(赤)・蘋果: 米(黄金)・野菜: 胡瓜(緑)・畜産: 牛(ピンク)の4色
(当地区のバランスのとれた農畜産物で未来を彩ります。)



ふくしま未来農業協同組合

令和5年11月

□管内の農業□

管内の面積は福島県全体の19%ほどで、県北地方は中心地域を南北に縦貫する形で阿武隈川が流れ、その流域に盆地が広がっています。

地域内には温泉をはじめ、多くの観光資源を有するとともに、もも、りんご、なし等全国有数の果樹地帯を形成しています。海に面した相双地域は、太平洋と阿武隈高原に囲まれて気候は温暖で降雪も少なく、快適な居住環境で平坦部では水稲、山間部では畜産が盛んです。その他全域において、数多くの園芸品目が生産されています。



「ふくしま桃の日 記念日制定
令和5年度は過去最高の73億円！
(直売含む)



飼料用米4,600haは全国最大規模



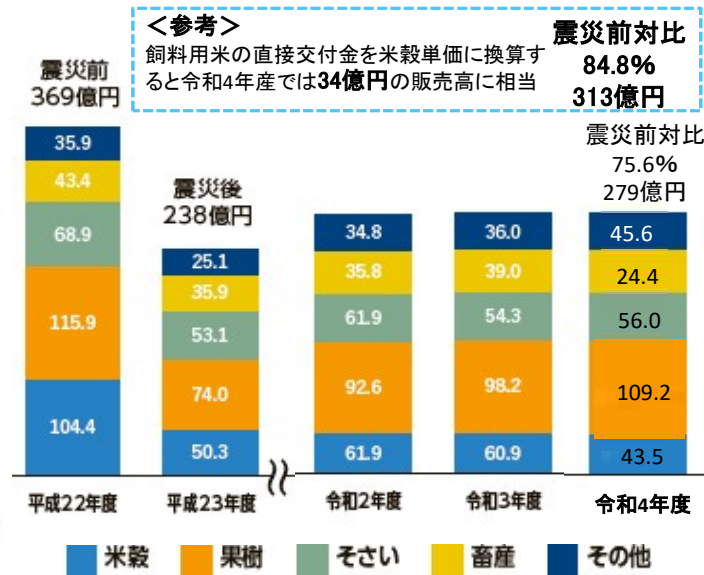
日本一の夏秋きゅうり産地継続中
令和5年度は過去最高の45億円



「伊達のはんぱ柿」GI認証と記念日制定



販売品販売高の推移



主な農産物販売高【受託販売】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度		令和2年度	令和3年度	令和4年度
① もも	46.9	56.7	65.3 億円	⑦ 生乳	10.4	10.3	9.9 億円
② 米	57.6	57.3	38.5 億円	⑧ 花卉	8.3	8.7	8.9 億円
③ きゅうり	43.5	37.1	38.0 億円	⑨ 肉牛	6.8	8.9	8.8 億円
④ 和牛子牛	15.7	16.8	15.1 億円	⑩ りんご	5.4	5.0	6.4 億円
⑤ なし	12.7	9.5	11.7 億円	⑪ ぶどう	6.2	7.0	6.3 億円
⑥ あんぱ柿	13.2	11.7	11.6 億円	⑫ いちご	6.4	6.4	6.1 億円

JA全体の販売高は、令和4年度279億円 10億円以上が6品目 1億円以上は18品目
東日本大震災・原発事故で落ち込んだ時期(238億円)と比較すると震災後117%と増加していますが、震災前(369億円)と比較すると75%の状況です。

JA販売高日本一4品目(もも、夏秋きゅうり、あんぱ柿、飼料用米)の生産・販売強化と重点品目を中心に新たな産地づくりをめざします！

□持続可能な農業の実現をめざして□

高付加価値販売実践サイクル

中長期
ビジョン

「持続可能な高付加価値販売実践サイクル」と
「JAふくしま未来版“成長と分配”」の実現

- ① 営農販売事業と購買事業をあわせて
収支均衡バランスのとれた事業運営
- ② 農業関連施設において利用者負担の
原則に基づく事業運営

JAふくしま未来版
「成長（経営安定）による
分配（支援と貢献）」

分配

<令和4年度の剰余金における還元>

- 出資配当金4億円(年2.5%)
- 事業分量配当金1億円(肥料・農業の供給高に対し3%)

支援と
貢献

<令和5年度計画>

- 農業振興支援事業
- 担い手育成給付事業
- 地域くらし支援事業 500万円

2億円



農業関連施設の整備状況
(令和元年度以降の着手分)

◆地域農業振興戦略 3つの柱

柱1 Plan 1 農業者の所得増大・農業生産の拡大、「みらいろテン!」の継続強化

柱2 Plan 2 異常気象・自然災害に対する対策・支援

柱3 Plan 3 震災からの完全復興に向けた産地づくり

農家後継者の減少

- 基幹的農業従事者の減少・高齢化
- 農家後継者は約8割が確保していない（2020農業センサス）

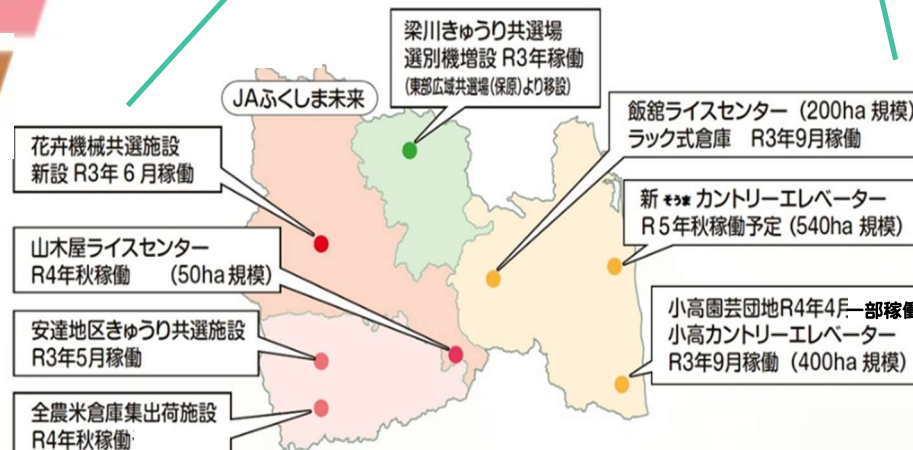
常態化する異常気象・自然災害

- 令和元年：台風19号による農業災害
- 令和2年：モモ穿孔細菌病・ナシ黒星病多発
- 令和3年：福島県沖地震・降霜被害
- 令和4年：福島県沖地震（2年連続）・降霜被害

震災からの完全復興

- 被災地区（小高・飯館・山木屋）の水田作付は震災前：2221ha
R4：628haで復旧率28.3%

課題認識



JAふくしま未来の大型農業関連施設>>カントリーエレベーター：6基、
果実共選場：13か所、きゅうり共選場：8か所、花卉選果場：1か所

柱1 Plan 1 農業者の所得増大・農業生産の拡大、「みらいろテン！」の継続強化



「のれん分け方式」による栽培指導
頼れる師匠が身近に！新規就農者の強い味方

『農業者の所得アップ』『農業生産の拡大』へむけて

●1営農センター1億円販売高アップへの取り組み

・令和3～5年8月 新規作付けや増反:1,189人 156ha、販売増加見込額13.7億円

●JAふくしま未来式「のれん分け方式」が令和4年度からスタート（令和5年8月末現在）

・「就農支援担当者の配置。就農者相談件数:192件、研修:30人、就農6人 研修受入協力農家86軒

●農業関連施設整備による生産基盤の拡大（5ページ参照:花卉、きゅうり、CE）

・新規作付けや栽培面積の拡大へ。きゅうり機械共選は個選に比べキロ単価35円プラス（令和4年度）

新規栽培者⇒◎きゅうり：令和4年度31人 令和5年度40人（R5で4ha増） ◎小菊：令和4年度32人 令和5年度13人（R5で1ha増）

●「農業振興支援事業」・「担い手給付育成事業」の継続

・パイプハウス新設や作業省力化機器、暖房機器、選別機の導入等の支援

・平成28～令和4年までに22億円給付。令和4～6年度：年あたり2億円

●JGAP認証（食の安全・安心）への取り組み

・令和5年2月末時点で 199圃場668ha、指導員206人、内部監査員201人

●「農の達人（作物別営農技術指導員として委嘱）」による営農技術指導

・匠の農業者16名を委嘱し、令和4年度においては114回指導会を開催

●生産資材コスト低減や店舗づくり

・オリジナル肥料、重点品目の地域最安値、大口農家への直送

令和5年度
専任担当配置

緊急対応 ●肥料価格高騰対策と「みどりの食料システム戦略」構築

『みらいろテン！』運動の成果

～農業者所得10%アップへの挑戦～

農業者所得10%UPへの挑戦

「収量アップ」「品質アップ」「コスト削減」

農業者所得アップの検証方法

- 簿記帳代行の利用者640件のうち、4か年（令和元年～4年）継続利用し、424件の農業所得用決算書（農業収支内訳書）より令和元年と令和4年を比較分析しました。
- なお、専従者控除や青色申告特別控除は対象外とし、これら控除前の額を農業所得としました。（上記の結果、農業所得がマイナスの方は今回の比較分析対象者から除いています）

424件の合計額
【収入・経費・所得】

■令和元年■
収入 46.7億円
経費 31.2億円
所得 15.5億円

令和元年から令和4年の
農業者所得の合計額は
16.1%のアップ

■令和4年■（元年差額）
収入 51.8億円（+4.8億円）
経費 33.5億円（+2.3億円）
所得 18.0億円（+2.5億円）

（※広報誌「みらいろ」令和5年7月号掲載）

検証報告

JAふくしま未来式

のれん分け方式の取り組み

就農についての相談から安定した農業経営まで
JAふくしま未来がサポートします。

STEP 1

就農相談

●JA・市町村・農林事務所と
トータルサポート体制で不安
や疑問を相談

STEP 2

研修▶1年目

●方針策定●長期農業研修●
就農準備支援●農地確保に向
けた耕作放棄地の再生利用

STEP 3

就農▶2年目

●圃場による栽培研修●農地
取得（賃借）●営農開始に伴う
施設、機械、資材等の取得支援
●資金対策支援●生産部会や
直売所への新規就農者受入

STEP 4

就農▶3年目

●就農後の継続支援●経営力
向上のための定期的な支援●
継続的営農技術指導●地域へ
の定着支援

柱2 Plan 2 異常気象・自然災害に対する対策・支援

●防除指導

- ・高温・低温・強風等の非常時の緊急情報発信
- ・防除に向けた新しい技術導入の研究・検討
- ・被災時における次期作への防除指導徹底

●助成支援

- ・令和3年: **凍霜害次期作支援事業** (果樹への被害: 果樹用肥料および防霜ファンの導入支援)
JA支援額: 45百万円 令和4年1月果樹肥料支援27百万円入金、令和4年8月防霜ファン18百万円入金
 (行政への支援要請～防霜ファン導入に対して、国50%、県25%、JA10%: 農家負担割合15%)
- ・令和3年: **米価下落に伴う次期作支援事業** (JA概算金が前年度より3,000円/60kg下落⇒肥料と水稻種子への助成)
JA支援額: 118百万円 令和4年7月入金 (基肥購入額の15%、水稻種子50円/kg)
- ・令和4年: **営農用燃料価格高騰対策支援** (原油価格高騰に対して施設園芸品目の営農継続支援)
JA支援額: 5百万円 令和4年6月入金 (定期配送の灯油・重油5円/ℓ 対象期間は令和3年9月～令和4年2月末)
- ・令和4年: **降雹被害次期作支援事業** (果樹等への被害: 福島県被害額12.9億円のうち、当JA管内で約6.9億円)
 営農継続に必要な果樹肥料並びに野菜苗等の植え直しのための費用 (苗・肥料・農薬) を助成
JA支援額: 21百万円 令和5年3月入金 (肥料等購入額の20%)
- ・令和4年: **肥料価格高騰対策事業** (国の事業への支援)
 令和4年秋肥分: 50百万円 秋肥供給高に対して66.8%申請)
- 農業資金** (令和4年度農業融資17.4億円 ※R4計画18億円 R5計画19.2億円)
- ・農家経営安定資金 ・新型コロナウイルス感染症対策緊急資金

<過去の被害とJA支援>

- ・令和元年: **台風19号による農業災害**
JA支援額: 80百万円 (パイプハウス再編など再建修繕に要する費用6.6億円)
- ・令和2年: **モモ穿孔細菌病、ナシ黒星病の多発**
JA支援額: 50百万円

福島県沖地震への共済金支払額
 ・令和3年2月発生 475億円
 ・令和4年3月発生 560億円
 (令和5年2月末現在)



甚大な降雹被害 (令和4年6月)

柱3 Plan 3 震災からの完全復興に向けた産地づくり

水稻作付再開と園芸振興

東日本大震災・原発事故により避難指示解除区域の営農再開を着実に実現するため、**水稻作付面積の拡大**とあわせ、**大型園芸団地を拠点とする園芸作物の作付拡大**をすすめています。

避難指示区域における水田作付け再開
 平成22年度 (震災前) 2,221ha
 令和4年度 628ha (復旧率28.3%)
 令和6年度目標690ha (復旧率31.1%)



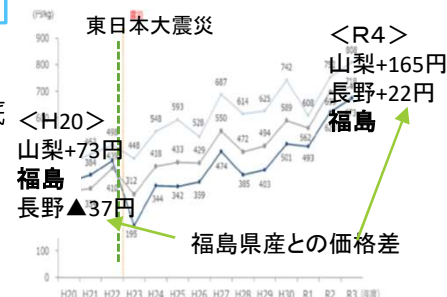
大型園芸団地が令和4年4月一部稼働 (南相馬市小高区)

令和4年度実績	○水稻育苗16,000枚	○きゅうり58a
令和5年度計画	○水稻育苗16,000枚	○きゅうり120a
	○スナップエンドウ15a	

風評被害払拭へむけて

- 放射性検査の継続実施 (モニタリングセンター常設)
- 生産履歴管理・残留農薬確認等の徹底した品質管理
- 積極的な視察受入 (他県からも多数)
- JGAP認証の取得
- 行政と一体したトップセールス
- 園場ライブカメラの導入
- 農産物輸出の拡大
 令和4年度実績51t (令和元年123t)

東京中央市場8月 桃の単価



震災直後に大きく下落。徐々に回復しているが、他産地との価格差は広がったまま

テーマ② 地域共生社会にむけた取り組み



地域貢献	地域くらし支援事業	地域への貢献や活性化に資する活動や非営利活動支援事業の立ち上げ等に対して 1団体あたり上限10万円まで支援(年間予算:500万円)令和4年度26団体 200万円	
	健康・福祉活動	健康活動ではウォーキング大会やヨガ、太極拳教室など。福祉活動ではミニデーターサービスや一人暮らしの組合員に弁当を宅配するなど助け合い活動	
	学校教育支援活動	作物から豆腐やこんにゃく、ジャムなどを作ったり、イベントを通じて楽しく学んだりする「食育」、地元の花や日本の歴史に触れ、生け花を体験する「花育」、栽培方法を学び実際に収穫体験などをする「農業体験」を展開。 令和4年度 食育44校 花育91校(3,774人) 農業体験52校	
連携強化	地域見守り活動	支店・事業所等を拠点とし、組合員・利用者宅を訪問する際に、高齢者・障害者・子供等の日常生活の見守りを行い(異変の早期発見、早期対応)、地域のつながりを深めます。 ※平成29年に管内12市町村と「地域見守り活動協定」締結。	
	管内市町村意見交換会	震災復興対策、高齢化対策、担い手育成、耕作放棄地対策、鳥獣被害対策、米政策、新規就農対策、地域活性化対策等、各行政の個別課題を相互確認・協力し連携を強化しています。	
	大学・生協との連携	協同組合の理念のもと、 大学や生協等との連携協定を結びながら相互連携を深めています。 東京農大や福島大学からは組合員農家への援農支援活動を通じて、 生産現場を実際に体験できる貴重な学びの場 に繋がっています。	
広報強化	広報活動の位置づけ	アクティブ・メンバーシップ強化に向けての第一ステップ JAの事業・活動を知ってもらうための“戦略的広報活動”が重要	
	重点取組	●ホームページのトピックス掲載強化(令和4年度:年間623回更新) ●広報誌「みらいろ」における自己改革情報発信 ●新聞への掲載強化(令和4年度の農業新聞への掲載477回、地方紙296回) ●マスメディアとの関係強化として報道記者懇談会(年2回) ●公式Youtube「みらいろチャンネル」での動画配信 ・組合長が管内の農家を訪問し、毎月1日動画配信 ・J-FAP(農産物PRチーム)による農家訪問・レシピ紹介 ●LINE、Facebookでのタイムリーな情報発信	
		知事へ農産物贈呈 J-FAPがPR 第3期みらいろプラン メインスローガン ど真ん中に“食と農”、次代につなぐ地域づくり	

地元産の花で生け花にチャレンジ(花育)

JAの総合事業・協同活動はSDGsへの貢献そのもの

地域活性化の取り組みが評価され、系統組織初となる第4回ジャパンSDGsアワード受賞(2020年12月 首相官邸)

